

OSC2012福岡セミナー: OSSの翻訳をやらないか (Doc-ja Archive Project)

45分ではたいしたことが話せないで、本当に導入だけです。翻訳プロジェクトへの参加に関心がある方はブースや懇親会で気軽に声をおかけください。

いいたいこと (ひとことではいえば「やらないか」)

翻訳への参加の敷居は高くないので、興味があればぜひ参加を。

「これ、誤訳じゃね?」とか「日本語が変」とか「わかりにくい。もっといい訳を思いついたぜ」とかあったら、通報よろ。一文字の誤字修正とかでも大歓迎。

ドキュメント翻訳の例

10月18日(日本時間では19日)、Ubuntu 12.10 Quantal Quetzal がリリースされました。リリースノートの内容が固まるのはリリース直前なので、18日深夜に必死で翻訳をしました(そのへんの様子は <http://togetter.com/li/392260> に)。

New Features in Ubuntu

There is no longer a traditional CD-sized image, DVD or alternate image, but rather a single 800MB Ubuntu image that can be used from USB or DVD. Users who previously installed using LVM or full-disk encryption via the alternate CD will find that these installation targets are supported by the consolidated image in 12.10.

With the Ubuntu 12.10, ARM desktop images are now standard Ubuntu live images as known from other architectures. To install these images you should have a USB disk as target device.

Desktop Interface

- Update Manager has been streamlined and renamed Software Updater. It also now checks for updates when launched. Additionally, the release upgrader portion of Update Manager has become its own package - ubuntu-release-upgrader.
- A new Xorg stack has been introduced which includes xserver 1.13 candidate versions, mesa 9.0, and updated X libs and drivers. The new xserver provides improved multiseat support, better smooth scrolling, and a large variety of bug fixes. There is a new version of the ATI driver, and the proprietary -nvidia driver now supports the RANDR standard for monitor configuration.

目次

- New Features in Ubuntu
 - Desktop Interface
 - Desktop Applications
 - Software Center
 - Ubuntu One
 - WebApps
 - Common Infrastructure
 - Secure Boot
 - Migration-support deprecated
 - Linux kernel 3.5.5
 - Python 3.2
 - GNU Toolchain
 - Java Toolchain
- Installation
 - Overview
 - Download
 - System Requirements
- Upgrading
 - Upgrading from Ubuntu 12.04 LTS
 - Upgrading from Other Releases

Ubuntuの新機能

伝統的なCDサイズのイメージやDVD、Alternateイメージはなくなり、USB/DVDで使用することができる、800MBの統合されたUbuntuイメージのみが提供されます。これまでAlternate CDを用いてインストール時にLVMやディスク全体の暗号化を利用していた場合は、この統合されたイメージで同等の機能を見つけることができるでしょう。

Ubuntu 12.10では、ARMデスクトップ用のイメージが他のアーキテクチャ同様に標準的なUbuntu liveイメージになりました。これらのイメージをインストールするには、インストールメディアとしてUSBディスクを使うとよいでしょう。

デスクトップインターフェース

- アップデートマネージャーは最新版となり、「ソフトウェアの更新」に名前が変わりました。起動した時にアップデートの確認を行うようになります。さらに、アップデートマネージャーの一部であったリリースアップグレーダーは、それ自身がubuntu-release-upgraderという名前のパッケージとなりました
- xserver 1.13候補版、mesa 9.0、そして、更新されたXライブラリとドライバーを含む、新しいXorgスタックが取り込まれました。新しいxserverは、改良されたMultiseatサポート、さらにスムーズとなったスクロール、大量のバグフィックスを提供します。新しいバージョンのATIドライバーや、モニター設定でRANDRをサポートしたプロプライエタリなnvidiaドライバーもあります
- UnityとCompizは、GLX命令だけをサポートするハードウェア上でも動作するようになりました。これにより

目次

- Ubuntuの新機能
 - デスクトップインターフェース
 - デスクトップアプリケーション
 - ソフトウェアセンター
 - Ubuntu One
 - WebApps
 - 共通インフラストラクチャ
 - Secure Boot
 - Migration-supportの廃止
 - Linux kernel 3.5.5
 - Python 3.2
 - GNUツールチェーン
 - Javaツールチェーン
- インストール
 - 概要
 - ダウンロード
 - システム要件
- アップグレード
 - Ubuntu 12.04 LTSからのアップグレード

Ubuntu 12.10 リリースノート中の、UbuntuDesktop の説明。

上: 原文 (<https://wiki.ubuntu.com/QuantalQuetzal/ReleaseNotes/UbuntuDesktop>)

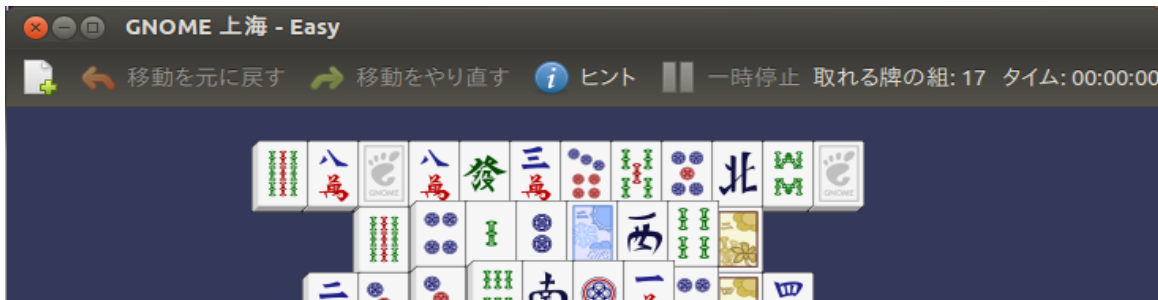
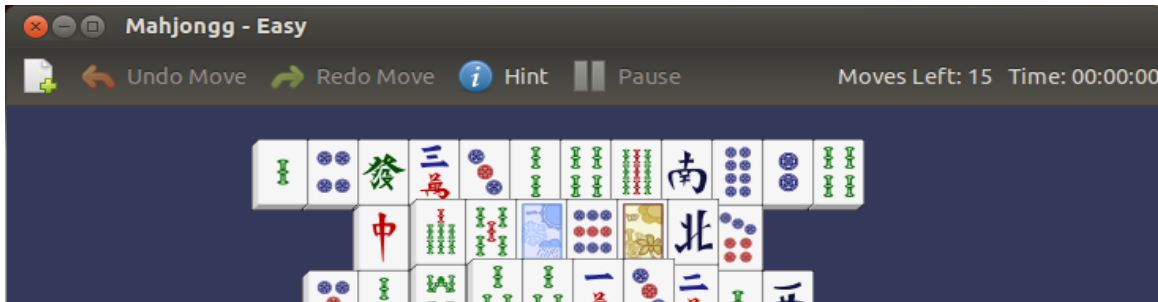
下: 日本語訳 (<https://wiki.ubuntu.com/QuantalQuetzal/ReleaseNotes/ja/UbuntuDesktop>)

リリース後に内容が大きく更新されることはあまりないので、一度訳せばそれで終わりです。しか

し、通常のマニュアル類などは原文が絶えず更新されているため、「訳を最新に保つ」ための労力が大きくなります。このような労力を軽減できるよう、po4aのような翻訳支援ツールがいくつかあります。

UI (ユーザーインターフェース) 翻訳の例

GNOME 上海 (gnome-mahjongg) のウィンドウの表示を例にとります。GNOME 上海は国際化されており、「英語版」「日本語版」といった区別はありません。同じ GNOME 上海でも、英語環境で起動すれば英語表示に、日本語環境で起動すれば日本語表示になります。



プログラムソースは以下のようになっています。(gnome-mahjongg/src/gnome-mahjongg.vala)

```
window = new Gtk.ApplicationWindow (this);
window.title = _("Mahjongg");
(略)
var label = new Gtk.Label (_("Moves Left:"));
```

さらに、以下のような翻訳ファイル (メッセージカタログ; po/ja.po) があります。gettext で国際化されたプログラムでは、このようにプログラムソースと翻訳を分離しています。翻訳を分離することで、コードを書く人と翻訳する人の作業が別に行えることや、原文更新時の訳の更新がしやすくなるというメリットがあります。

```
msgid "Mahjongg"
msgstr "GNOME 上海"

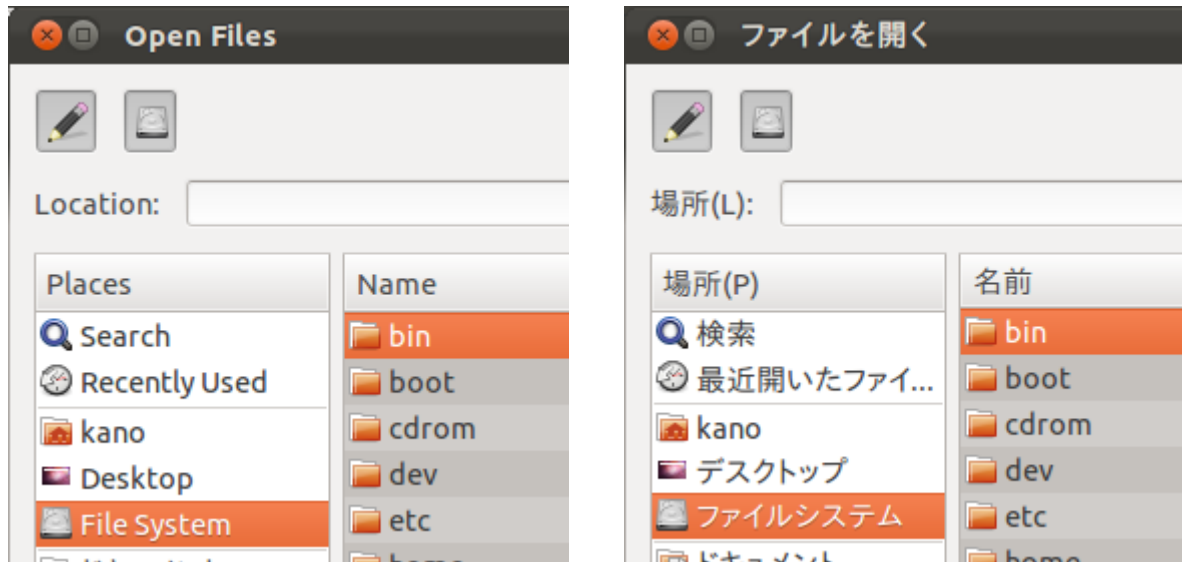
msgid "Moves Left:"
msgstr "取れる牌の組:"
```

Moves Left の訳にご注目ください。GNOME 上海では、牌を山から取る動作を “Move” としています。Moves Left は、山から取れる状態の牌が何組あるかを表しています。これを字面だけ見て「左に移動」などと訳してはいけないというわけです。UI の翻訳は、スペースの制約もあり、かなり簡潔なメッセージとなっていることがあります。このため、どのような状況や文脈で使われるメッセージか理解しないと、適切な翻訳ができないことがあるのです。

字面だけ見てはいけない例をもうすこし

同じ原文であっても、状況によって訳し分ける必要があります。“Open File(s)”という原文を例にとります。

GNOME 標準のテキストエディター gedit では、File(ファイル)→Open(開く)するとファイル選択ダイアログが現れますが、このタイトルが“Open File”です。訳は「ファイルを開く」です。



いっぽう、GNOME の統合開発環境 Anjuta では、File(ファイル)→Open(開く)を選択すると、ウィンドウ下部に“Open File”というヘルプが現れます。こちらの訳は「ファイルを開きます」です。



GNOME では、メニュー項目やタイトルなどは常体や体言止めとし、ヘルプやエラー・警告メッセージの本文などは敬体にするのが通例です(このあたりはプロジェクトにより異なります)。

これらは文体が違うだけなので実害は少ないかもしれませんが、同じ原文がまったく別の意味で使われることもあります。

gnome-system-monitor では、各プロセスがオープンしているファイルを調べることができます。プロセス一覧からプロセスを選んでから、右クリックあるいは View(表示) メニューから Open Files

(オープンしたファイル)すると、“Open Files”というウィンドウが現れます。こちらの訳は「オープンしたファイル」です。

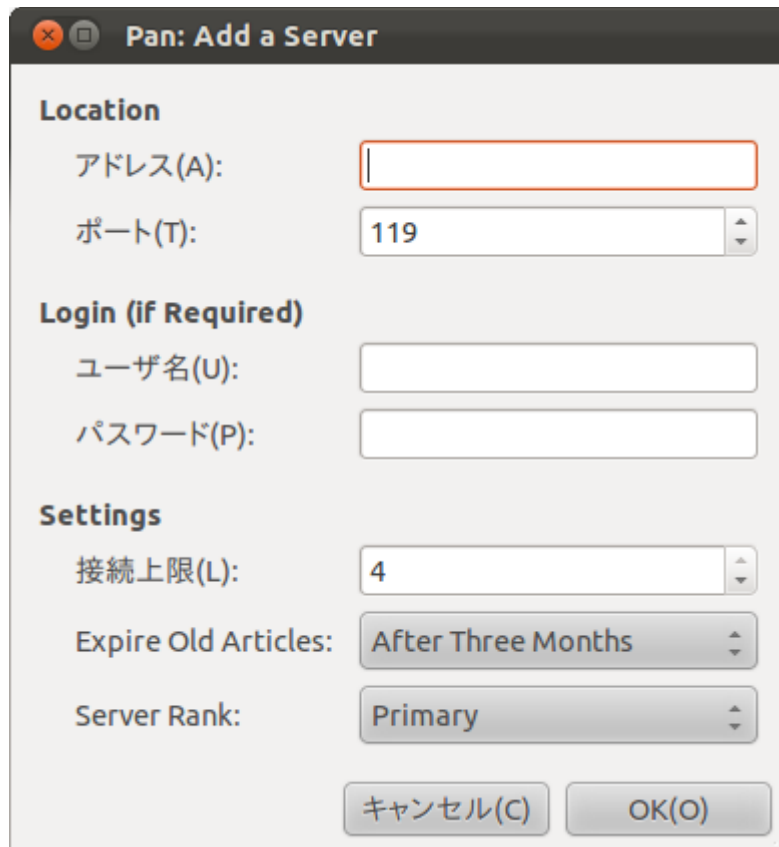


このように、同じメッセージでも文脈によって訳が変わってきますし、直訳では意味不明なメッセージになってしまうこともあるので、メッセージの字面だけ見て翻訳するのは危険です。

やらないか

このような説明をすると、難しいという印象を持たれるかもしれませんが、現に自分が使っているソフトを訳すのなら恐れることはありません。実際に操作して、どのような状況で使われるメッセージであるかを確認しながら翻訳すればよいのです。

もし、お気に入りのソフトがあって、未翻訳のメッセージがあったら、翻訳に参加してみませんか。あるいは、すでに翻訳されているソフトで、誤訳、誤字や、日本語として不自然な表現などに気づいたら、修正をしてみませんか。(図は、GNOME のニュースリーダー pan の画面)



コードについてオープンな体制をとっている (=リポジトリ、メーリングリスト、BTS 等が公開されており、バグ報告やパッチの提案などが誰でもできる) オープンソースプロジェクトなら、通常は翻訳についてもオープンな体制をとっていると思います。プロジェクトごとに参加の方法は異なりますので、まずは様子を眺めてみましょう。

翻訳作業はどのようにおこなわれているか

作業方法はプロジェクト毎にさまざまです。

GNOME の場合は、翻訳者が po ファイルを直接編集して、damned-lies という web システムにアップロードしています。

Damned-lies: <http://l10n.gnome.org/>

Ubuntu では Launchpad Translations という web システムで、メッセージ単位で web フォームに訳を入力していきます。

Launchpad Translations: <https://translations.launchpad.net/>

そのほか、今日の出展団体を例にとると、PostgreSQL は po ファイル (UI) あるいは SGML (マニュアル) を直接編集してメーリングリストでレビューしており、OpenStreetMap は translatewiki.net という web サービスを使っています (JOSM の UI などは Launchpad です)。LibreOffice では pootle という web システムを自前で動かしています。Mozilla はいろいろあるので、知りたい人はブースのひとに聞いてみましょう¹。

これら以外にも、OSC 出展団体のなかには、「翻訳」を積極的に宣伝していないものの、翻訳活動をしているところが結構あります。関心がある方はブースのひとに声をかけてみてはいかがでしょうか。

実演 (時間があれば)

Ubuntu 翻訳に使われている Launchpad でやってみましょう。これを選んだ理由は、web ブラウザだけで作業でき、敷居が低そげだからです。

Ubuntu 12.10 で日本語環境で `runlevel -help` すると、`runlevel(8)` コマンドの使い方が表示されますが、日本語と英語が混在した状態になっています。

```
% runlevel --help
使い方: runlevel [OPTION]... [UTMP]
直前および現在のランレベルを出力します。

Options:
  -q, --quiet           reduce output to errors only
  -v, --verbose         increase output to include informational messages
  --help               display this help and exit
  --version            output version information and exit

The system /var/run/utmp file is used unless the alternate file UTMP is given.

Report bugs to <upstart-devel@lists.ubuntu.com>
```

1 ていうか、どんどん聞け。中の人たちを質問責めにしてやれ。

これは、英語の部分がまだ翻訳されていないからです。オプション一覧のあとの一文 (The system...) を翻訳してみましょう。

代替ファイルとして UTMP を指定しない場合、システムの /var/run/utmp ファイルが使われます。

最近の Ubuntu では、runlevel コマンドは upstart パッケージに含まれています²。

Ubuntu 12.10 用の upstart パッケージの翻訳は

<https://translations.launchpad.net/ubuntu/quantal/+sources/upstart/+translations>

でおこなわれています。ただし、upstart の場合は上流の開発も Launchpad でおこなわれており、上流の翻訳も Launchpad でおこなわれています。

<https://translations.launchpad.net/upstart/>

ということで、ここでは上流の main trunk 用の翻訳

<https://translations.launchpad.net/upstart/trunk/+translations>

で作業してみましょう。各言語の翻訳へのリンクの一覧が表示されます(Launchpad の設定により、日本語だけを表示するようにすることができます)ので、日本語のリンクをたどると、翻訳作業用の画面になります。

<https://translations.launchpad.net/upstart/trunk/+pots/upstart/ja/+translate>

The screenshot shows the Upstart translation interface. At the top, there's a navigation bar with 'Overview', 'Code', 'Bugs', 'Blueprints', 'Translations' (selected), and 'Answers'. The user 'OKANO Takayoshi (kano)' is logged in. The main heading is 'Translating into Japanese'. Below it, there are buttons for 'Download translation', 'Upload translation', 'Translation details', and 'Reviewer mode'. A search bar is on the right. The interface shows that translations are shared with 'upstart in Ubuntu Edgy template upstart'. There are dropdown menus for 'Translating all items' and 'using (no value) as a guide'. The results section shows '1 -> 10 of 272 results'. The first result is 'Unable to load configuration' in English. The current Japanese translation is '設定を読み込めません', translated by Shushi Kurose on 2010-09-19 and reviewed by Fumihito YOSHIDA on 2012-04-13. There are suggestions for '設定をロード出来ません' and 'Used in streamtuner in streamtuner main'. A 'New translation' section has a text input field and a checkbox 'Someone should review this translation'. The second result is 'Loading configuration from %s' in English.

2 もちっと伝統的などころでは sysvinit だったりします。同名のコマンドでも複数の異なる実装があることがありますので、よくわからなければまわりに相談してみましょう。

1画面に10メッセージしか表示されないなので、メッセージ数が多いパッケージではたどり着くのが大変です。画面右上の検索フォームに翻訳したいメッセージを入れて検索すれば、対象のメッセージにたどり着けます。

Download translation Upload translation Translation details Reviewer mode (What's this?) Search: The system /var/run/utmp file is u

These translations are shared with upstart in Ubuntu Edgy template upstart.

Translating all items using (no value) as a guide. Change

1 → 1 of 1 result First • Previous • Next • Last

224. English: The system /var/run/utmp file is used unless the alternate file UTMP is given. represents a line break. Start a new line in the equivalent position in the translation.

Current Japanese: (no translation yet)

New translation:

Someone should review this translation

Located in util/runlevel.c:62

なお、メッセージ左側の虫眼鏡アイコンは、個々のメッセージへのリンクとなっています。レビューやコミットを依頼する際には、このURLを使ってメッセージを特定することができます。

<https://translations.launchpad.net/upstart/trunk/+pots/upstart/ja/224/+translate>

フォームの New translation 欄に訳文の案を記入して、Save & Continue ボタンを押すと、訳の提案ができます。

Download translation Upload translation Translation details Reviewer mode (What's this?) Search: The system /var/run/utmp file is u

These translations are shared with upstart in Ubuntu Edgy template upstart.

Translating all items using (no value) as a guide. Change

1 → 1 of 1 result First • Previous • Next • Last

224. English: The system /var/run/utmp file is used unless the alternate file UTMP is given. represents a line break. Start a new line in the equivalent position in the translation.

Current Japanese: (no translation yet)

New translation: 代替ファイルとしてUTMPを指定しない場合、システムの/var/run/utmpファイルが使われます。

Someone should review this translation

Located in util/runlevel.c:62

あとは、他の人がレビューして問題なければコミットされ、問題があれば却下されたり修正されたりします。

Ubuntu では、品質を保つため、翻訳をしたら必ず別の人の査読を受けるという運用ルールがあります。翻訳や修正の提案をしたら、査読を依頼しましょう。wiki でおこなうのが基本ですが、少量で明らかな翻訳であれば、「まーぼー先生査読よろ」「アニキ査読よろ」などのように twitter で mention を飛ばせば OK です。

https://twitter.com/okano_t/status/254848443707686912



専門知識が必要となるものは、わかる人が集まっていそうな場所で査読依頼をするとよいでしょう。

なお、GNOME や Ubuntu の翻訳チームでは幅広いソフトウェアを対象に翻訳しており、「全部を把握している人」はいないとお考えください。査読依頼をしたり翻訳の問題の指摘をしたりするときは、単に訳文を投げるだけでなく、どのような状況で表示されるメッセージかを説明したり、修正が必要な理由を説明したり、実際の表示のスクリーンショットをつけたりすると、査読がやりやすくなります。

参考情報

Ubuntu と GNOME の翻訳に際して参考になりそうなところとか。

- ~師範……アプリの日本語訳に挑戦してみたいです！（前編）～ | 行っとけ！ Ubuntu 道場！
<http://ascii.jp/elem/000/000/545/545101/index.html>
- ~師範……アプリの日本語訳に挑戦してみたいです！（後編）～ | 行っとけ！ Ubuntu 道場！
<http://ascii.jp/elem/000/000/549/549962/index.html>
- GNOME 日本語翻訳チーム参加者ガイド
<http://www.gnome.gr.jp/110n/gnomeja-guide/gnomeja-guide.html>
- Ubuntu Magazine vol.08 の記事³: ホンヤクしようぜ!! 第1回 GNOME プロジェクト
<http://ubuntu.asciimw.jp/elem/000/000/010/10503/>
- GNOME 翻訳入門 (OSC2012 Tokyo/Spring の日本 GNOME ユーザー会セミナー資料)
http://www.ospn.jp/osc2012-spring/PDF/osc2012spring_jgug.pdf

Doc-ja Archive Project の宣伝

今回のセミナーでは、Ubuntu と GNOME を例としてとりあげましたが、このセミナーの出席団体は Ubuntu Japanese Translators チームでも GNOME 日本語翻訳チームでもなく、Doc-ja Archive Project です。

オープンソース関係の翻訳プロジェクトは、Ubuntu や GNOME 以外にも数多く存在します。しかし、翻訳に関するノウハウの共有など、プロジェクト間の交流はあまりおこなわれていません⁴。また、翻訳そのものについても、Linux ディストリビューションなどでは多くの翻訳プロジェクトの成果を取り込んでおり、訳語統一などの調整が必要となることもあります。そのような翻訳プロジェクト同士の交流の場となることを目的として Doc-ja が作られました。

Doc-ja Archive Project: <http://openlab.ring.gr.jp/doc-ja/>

主にメーリングリストで活動しており、それなりの人数が加入しているようですが、最近はあまり動きがありません。翻訳に関心がある方はぜひ加入いただくとともに、何か翻訳に関して相談したり情報共有したいネタがあれば積極的にメールを投げてください。

3 Ubuntu Magazine では、過去の号の記事の PDF ファイルを web 公開しており、一定の条件 (CC BY-NC-SA) 下で自由に利用することができます。挿絵の顔を全部松屋仮面にするといったことも可能です。ただし、紙の本が売れないと、刊行自体ができなくなるので、お金を出してもよいという気分になったら紙の本を買うといいかも (ステマ)

4 GNOME は多くの Linux ディストリビューションで標準で採用されていることから、ディストリビューションの翻訳メンバーが GNOME 翻訳チームにも何人も参加しており、それなりに良好な関係ができているような気がします。ただし、組織的な協力体制ができているわけではありません。

書いた人: おかの (Twitter @okano_t)

書いた日: OSC2012 福岡の前日

書いた場所: 博多に向かう新幹線の中

印刷した場所: 会場近くのセブンイレブンのはず